



| | |
|--------------|---|
| Title | 日本語・日本文化 第50号 奥付 |
| Author(s) | |
| Citation | 日本語・日本文化. 2023, 50 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/91273 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

執筆者紹介

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 中田 一志 | 本センター教授 |
| 五之治昌比呂 | 本センター教授 |
| 小森 万里 | 本センター准教授 |
| 柴田 芳成 | 本センター准教授 |
| 山川 太 | 本センター准教授 |
| 水野 亜紀子 | 本センター准教授 |
| 松岡 里奈 | 本センター講師 |
| 下村 朱有美 | 本センター特任講師 |
| 松浦 幸祐 | 本センター特任助教 |
| 笹川 史絵 | 本センター特任助教 |
| 谷口 萌子 | 本センター元特任研究員、 国際交流基金バリエーション日本語指導助手 |
| 田村 幸誠 | 人文学研究科准教授 |

編集後記

第50号の記念となる今号を無事刊行することができ、編集委員一同、うれしく思っております。本誌は、1969年（昭和44年）に大阪外国語大学留学生別科より第1号が刊行されて以降、日本語・日本文化に関する多くの研究成果が発表されてきました。今号には、本センターおよび関係機関所属教員12人から10編の論考が集まり、本センターにおける日本語・日本文化研究のますますの広がりを見ることが出来ます。

言語学・日本語学系では、日西両語の接続詞「そして」と「y」について考察した中田論考、サセル文における非使役的解釈を意味構造の観点から分析した山川論考、大阪式アクセントの習得について音声学基盤音韻論の観点から議論を展開した松浦・田村論考の3編、文化系では、青木繁と古代ギリシャの関わりについて論じた五之治論考、『源願懸重宝記』を説話的な観点から再考した柴田論考、芥川龍之介『運』に反戦思想表明の可能性を指摘した水野論考の3編、日本語教育系では、論文作成における大学院留学生の情緒的特性の発達を検討した小森論考、大学教職員への日本語学習支援者養成プログラムの意義を示した松岡論考、包摂性をもった遠隔授業見学システムの効果を検証した松岡・笹川論考、初級日本語読解課題作成の困難点と対応策を提示した下村・谷口論考の4編が掲載されています。いずれも本センターでの教育実践と研究の往還の中で具現化した成果であるといえるでしょう。

今後も本センターに関わる皆様からのさまざまな論考を発信していきたいと思えます。そして、本誌がより多くの方々へ参照され、日本語・日本文化教育に資するものとなっていくことを願っております。

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センターまたは関係機関所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
 2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
 3. 体裁：研究論文はA4用紙35字×35行20,000字程度（欧文はA4ダブルスペース30行10,000語程度）、研究ノート・研究報告は10,000字程度（欧文は5,000語程度）。
 4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A4ダブルスペース1枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800字程度）を添付。
 5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定。
-

編集委員

岩井 茂樹 小森 万里 山川 太

日本語・日本文化 第50号

2023年3月10日 発行

| | |
|----|---|
| 編集 | 大阪大学 |
| 発行 | 日本語日本文化教育センター 〒562-8678 箕面市船場東3-5-10 電話 (072) 730-5459 FAX (072) 730-5074 |
| 印刷 | 株式会社アイジイ |